2-2　人口の将来見通しに関する分析

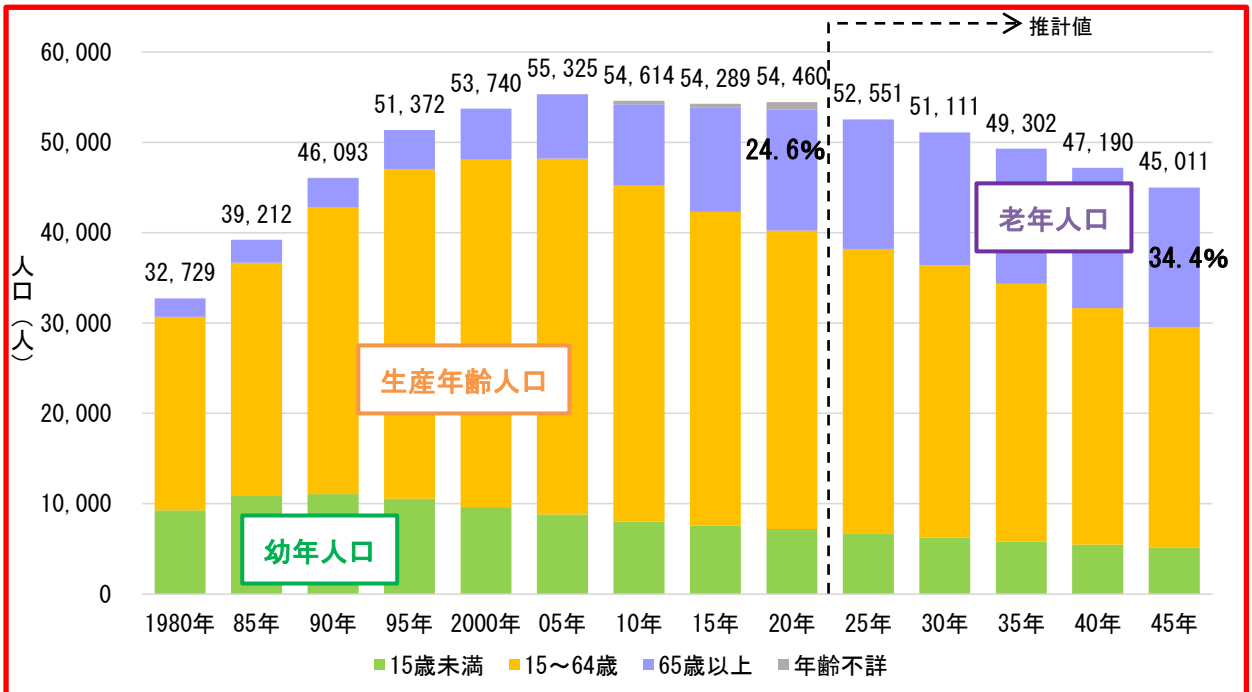
(1) 都市全体の人口動向

・国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今後も人口減少が続き、2045 年（令和 27 年）には 45,011 人にまで減少する見込みとなっています。

・また、高齢化率（65 歳以上人口比率）は、現在は 24.6%に過ぎませんが、2045 年（令和 27 年）には 34.4%まで高まる見込みとなっています。

※(2)以降での小地域毎の推計は、2010 年と 2015 年の人口の変化率を用いて推計した後、合計が国立社会保障・人口問題研究所の社会動態も含めた推計と整合するよう補正しています。

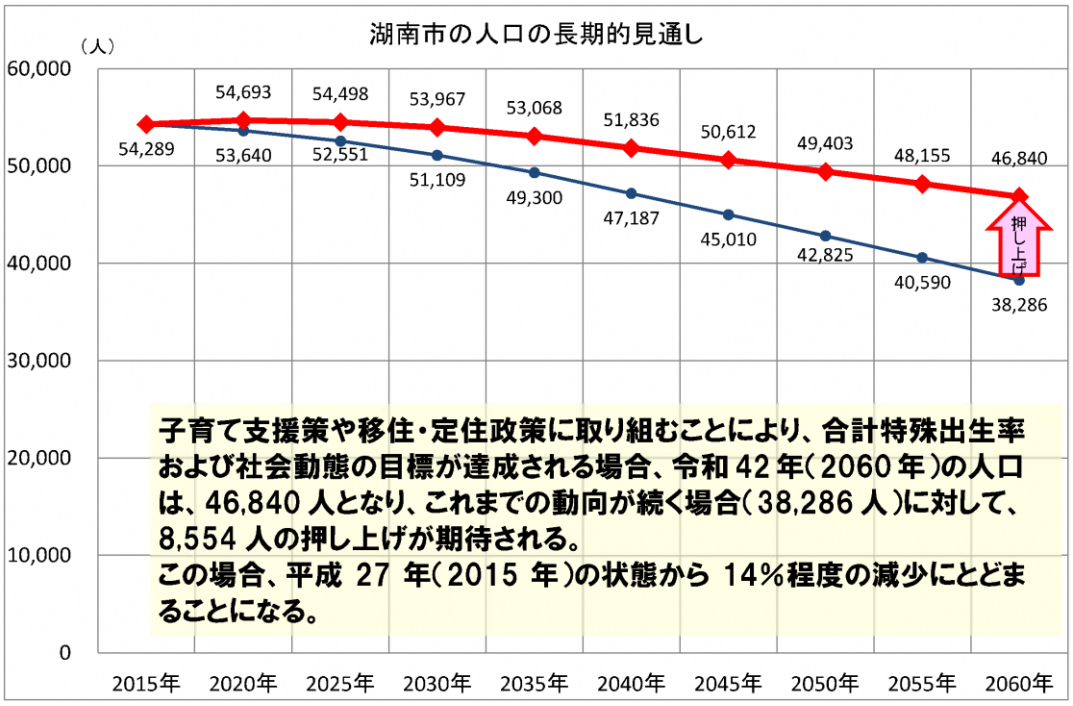
令和 2 年の国勢調査の結果の追加と社人研の推計結果を 2040 年から 2045 年まで更新しました。

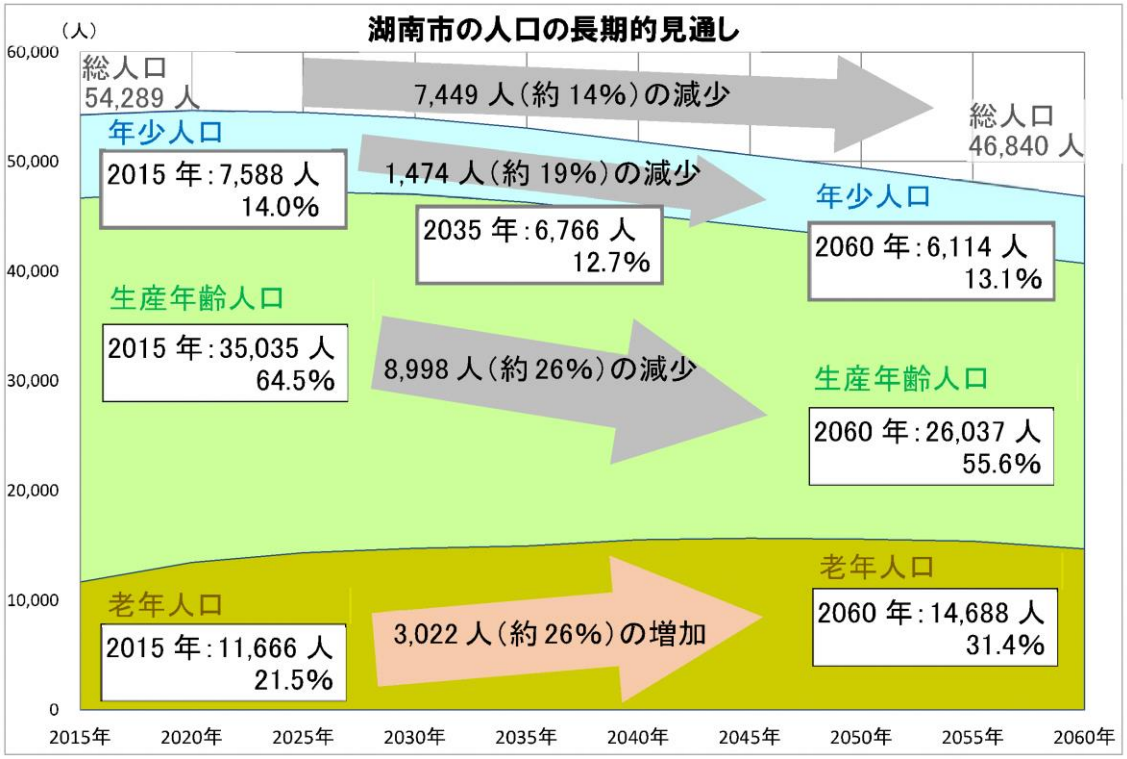


■人口・高齢化の見通し（資料：国立社会保障・人口問題研究所）

令和３年に改訂された第二次湖南市総合計画後期基本計画に記載されている内容に変更しました。

・一方、2021 年（令和３年）４月策定の「第二次湖南市総合計画後期基本計画」では、働く場の創出（「安定した雇用を創出する」）、ひとへの投資（「新しいひとの流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」）、まちづくり（「時代にあった地域づくり」、「誰もが活躍できる社会をつくる」、「安心して暮らせる住環境整備」）に取り組むことにより、合計特殊出生率および社会動態に関する目標が達成される場合、2060 年の人口は、これまでの趨勢が続く場合（38,286 人）に対して、46,840 人と 8,554 人多くなる見通しとしています。





(2) 地区別人口・高齢化の見通し

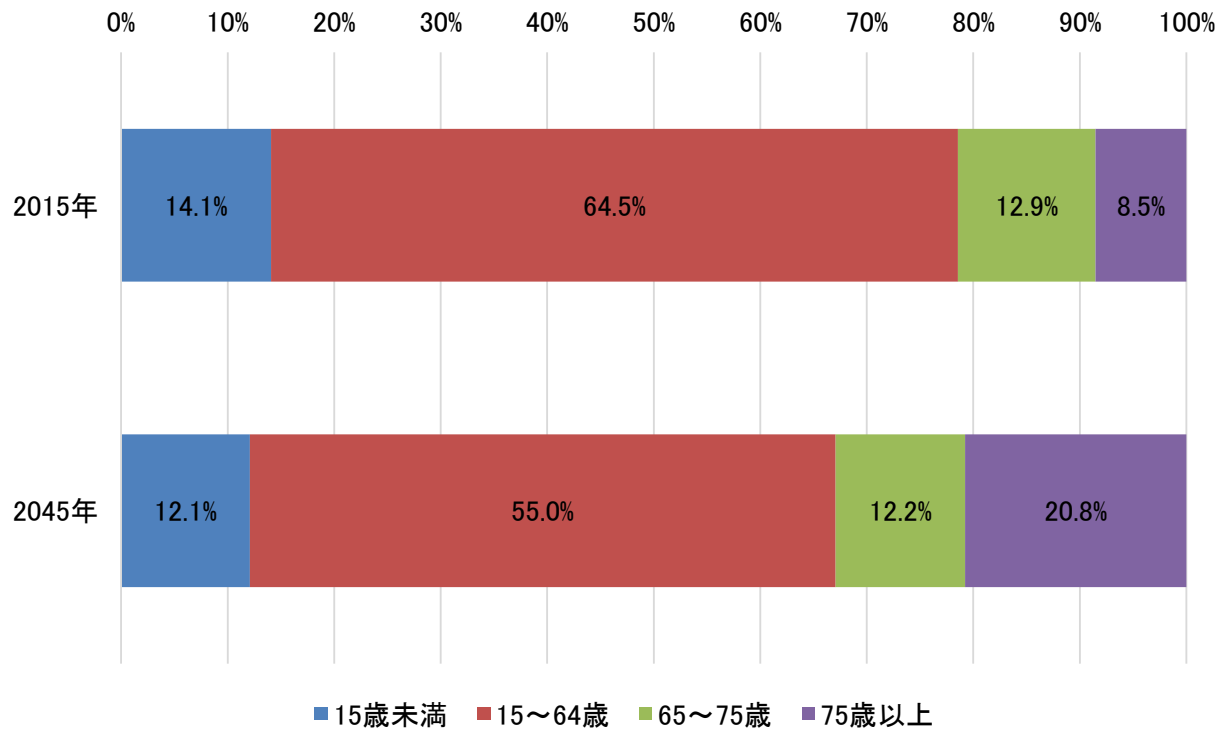
2010 年と 2040 年の人口見通しを
2015 年と 2045 年の人口見通しに変更しました。

・2015 年（平成 27 年）から 2045 年（令和 27 年）にかけては、市全体の人口減少率は 17.1%に達する一方、65 歳以上人口が大きく増加する見通しとなっています。

・地区別には、菩提寺、下田、三雲での減少率がやや大きくなっています。

■地区別人口の見通し

	地区名	2015年（平成27年）人口	2015年（平成27年）高齢者	2045年（令和27年）人口	2045年（令和27年）高齢者	人口増加率(%) 2015→2045	2015年（平成27年）高齢化率(%)	2045年（令和27年）高齢化率(%)
1	三雲	15,138	3,311	13,461	3,867	−11.1	21.9	28.7
2	石部	6,344	1,314	6,907	1,460	8.9	20.7	21.1
3	石部南	5,571	1,382	6,601	4,152	18.5	24.8	62.9
4	岩根	7,090	1,341	6,267	1,345	−11.6	18.9	21.5
5	菩提寺	11,373	2,574	5,968	2,321	−47.5	22.6	38.9
6	下田	4,961	1,212	3,012	1,056	−39.3	24.4	35.1
7	水戸	3,812	508	2,794	623	−26.7	13.3	22.3
市全体		54,289	11,641	45,011	14,825	−17.1	21.4	32.9



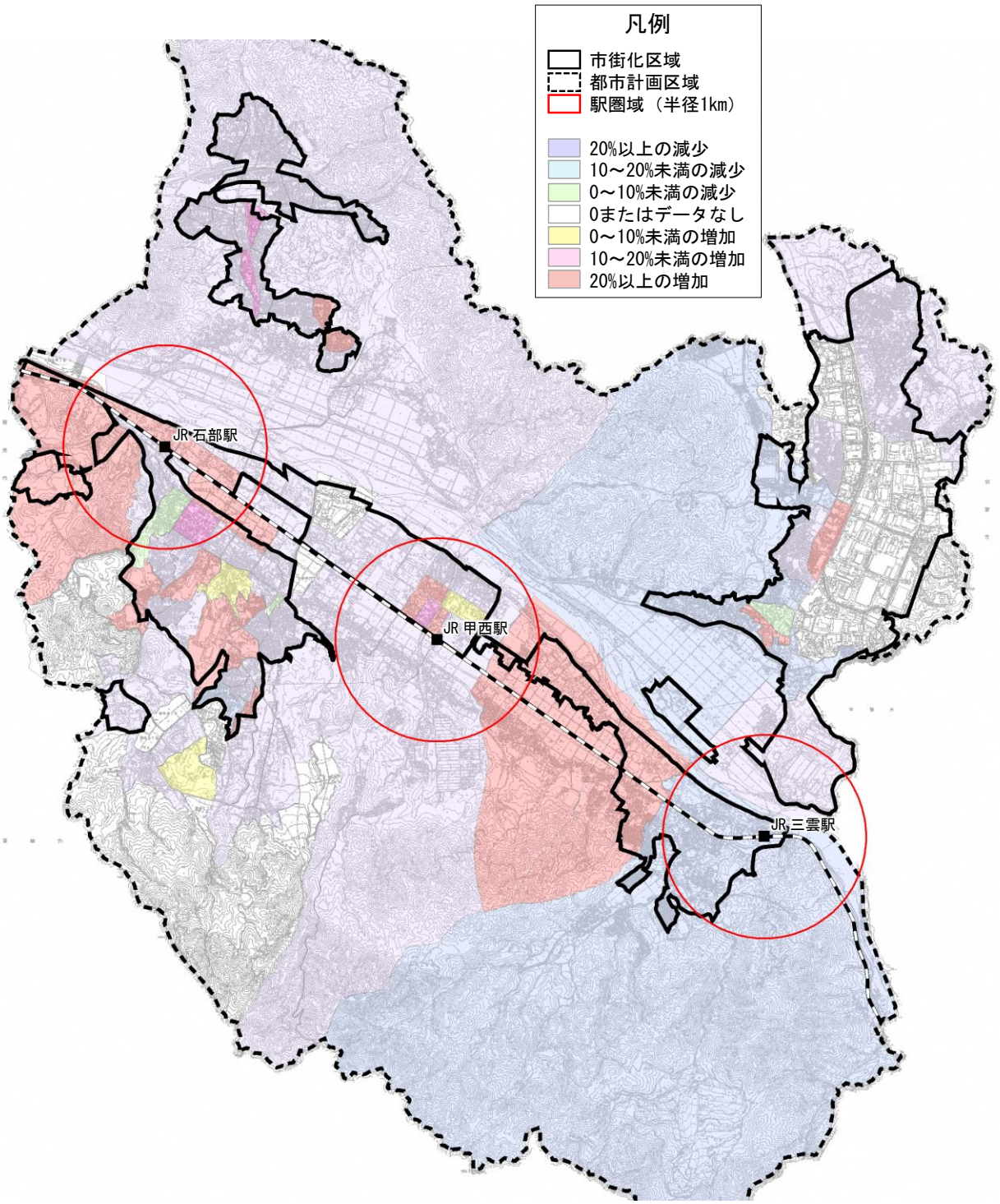
■年齢階層別人口割合の推移

(3) 小地域別人口・高齢化の見通し

2010 年と 2040 年の人口増減を
2015 年と 2045 年の人口増減に変更しました。

①小地域別人口の見通し

・多くの地域で人口が減少する見通しとなっていますが、菩提寺市街地の県道沿いや石部駅周辺市街地、甲西駅北部、水戸、岩根市街地の県道沿いなどにおいて 10%以上の人口増加地区がみられます。

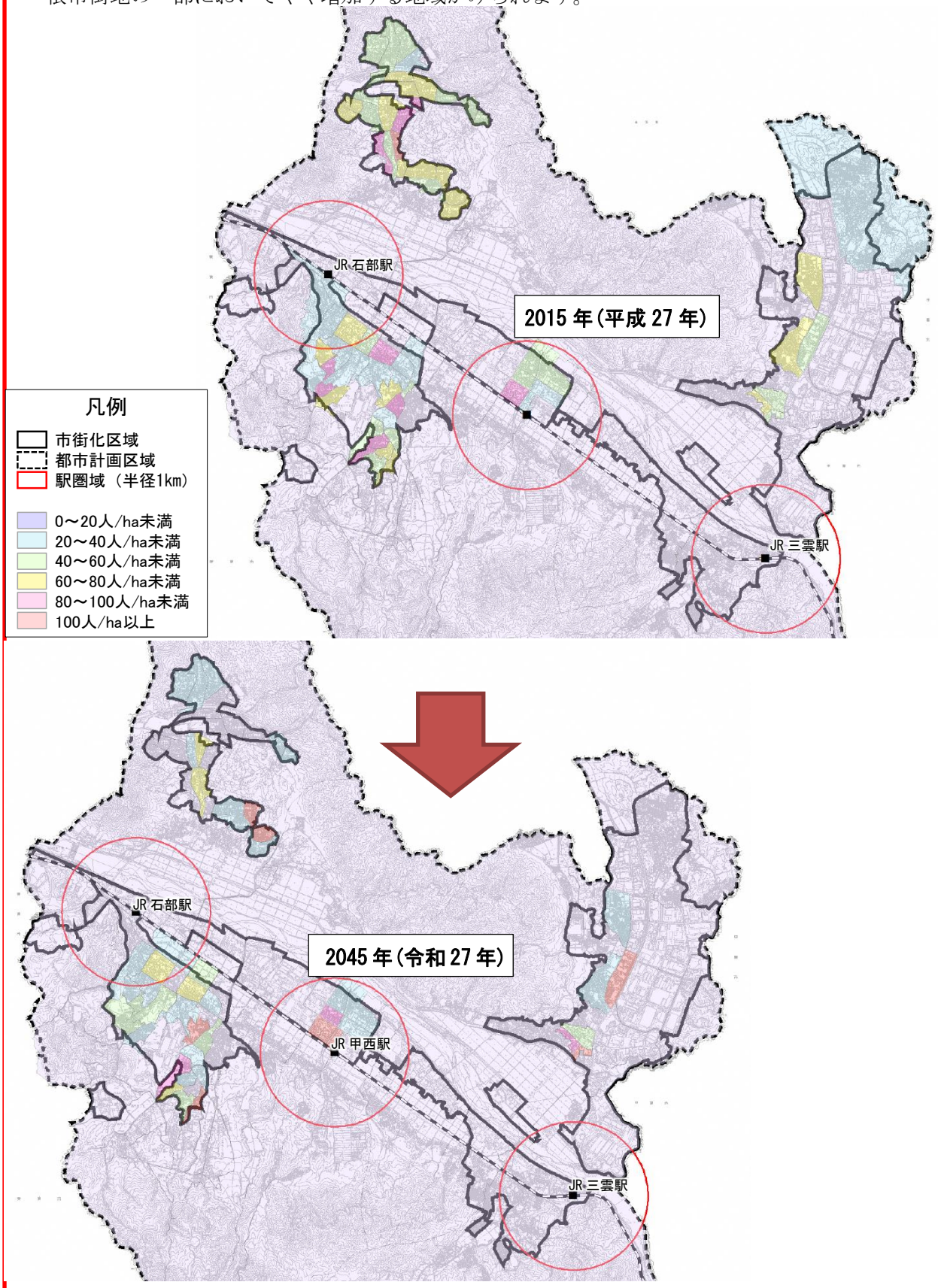


■小地域毎の人口増減率（2015 年（平成 27 年） ⇒ 2045 年（令和 27 年））

②小地域別人口密度の見通し

2010 年と 2040 年の人口密度の見通しを
2015 年と 2045 年の人口密度の見通しに変更しました。

・人口密度は、多くの地域で低下しますが、菩提寺市街地の南部や、甲西駅周辺市街地、水戸、岩根市街地の一部においてやや増加する地域がみられます。

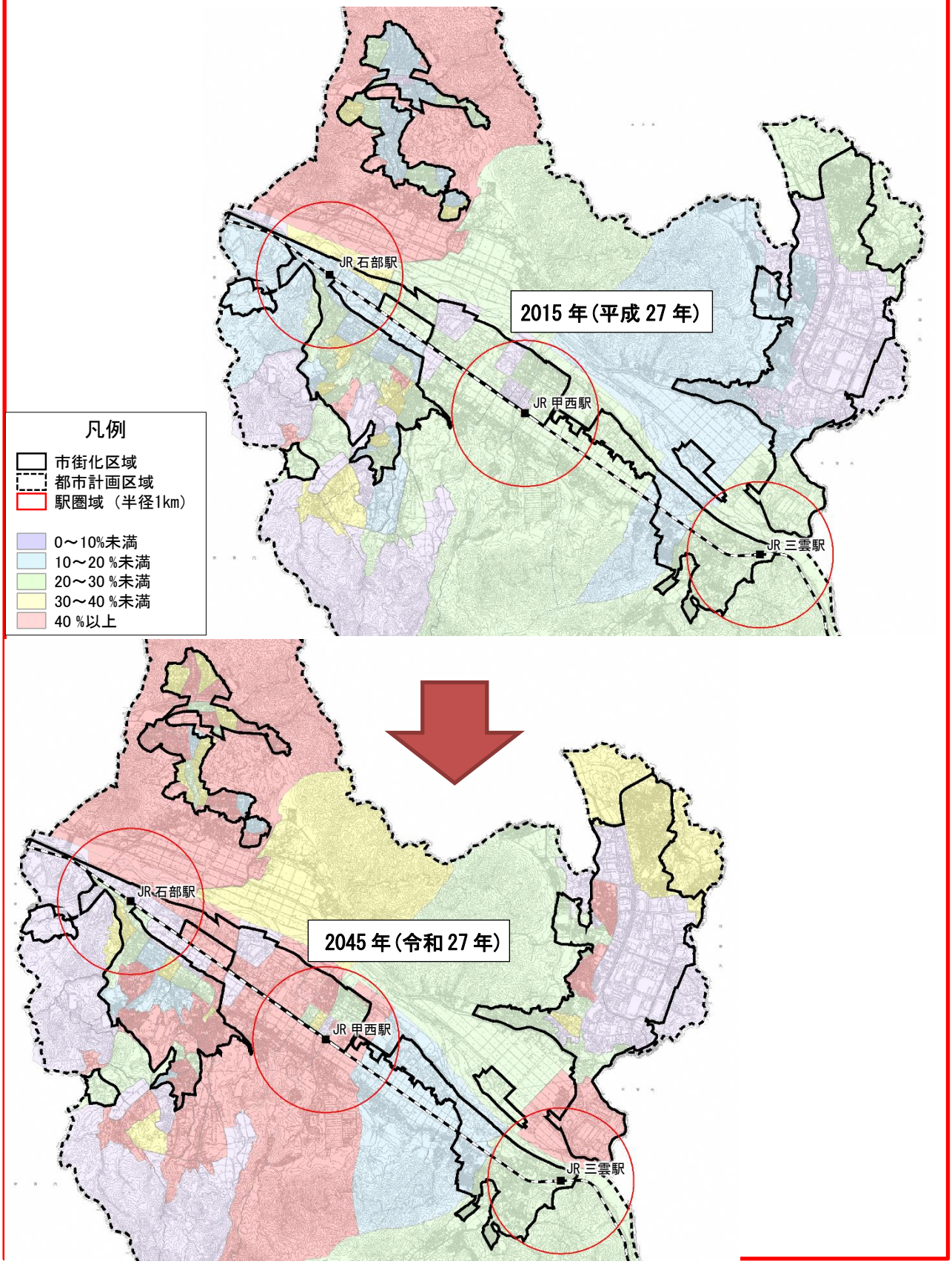


■小地域毎の人口密度分布図

③小地域別高齢化率の見通し

2010 年と 2040 年の高齢化の見通しを
2015 年と 2045 年の高齢化の見通しに変更しました。

・全体的に高齢化率が高くなると見込まれており、菩提寺地区、石部地区の南部、甲西駅周辺などにおいては 2045 年（令和 27 年）に高齢化率が 40%以上と見込まれる地域がみられます。



■小地域毎の高齢化率分布図

2-3　現状及び将来見通しにおける都市が抱える課題の分析

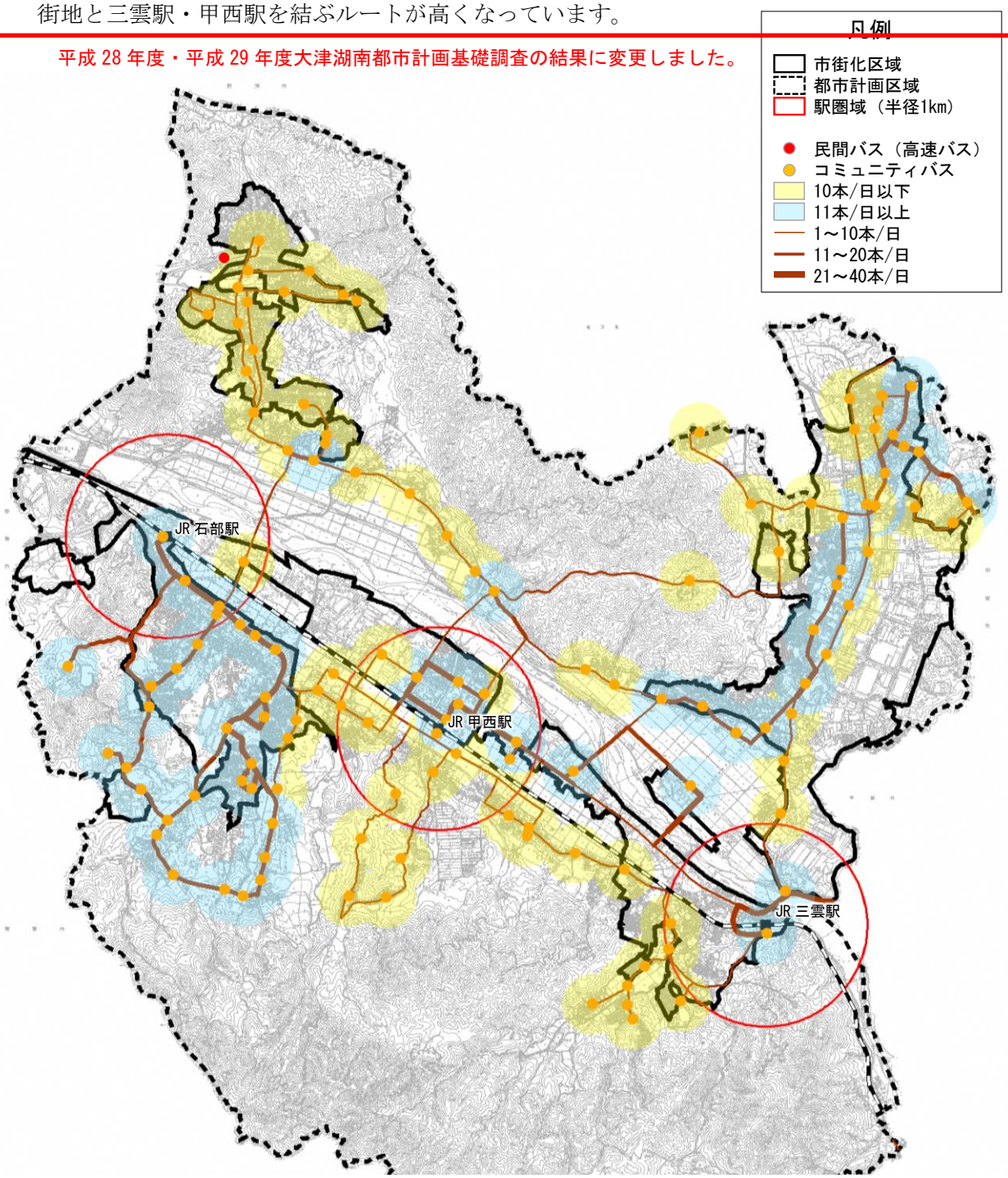
(1) 公共交通の利便性、持続可能性

①公共交通の利便性

・甲西駅周辺市街地は大半が駅勢圏（半径 1km）に含まれますが、石部駅周辺・三雲駅周辺市街地は、地形的な制約もあり住宅市街地の中心と駅の位置には隔たりが生じています。

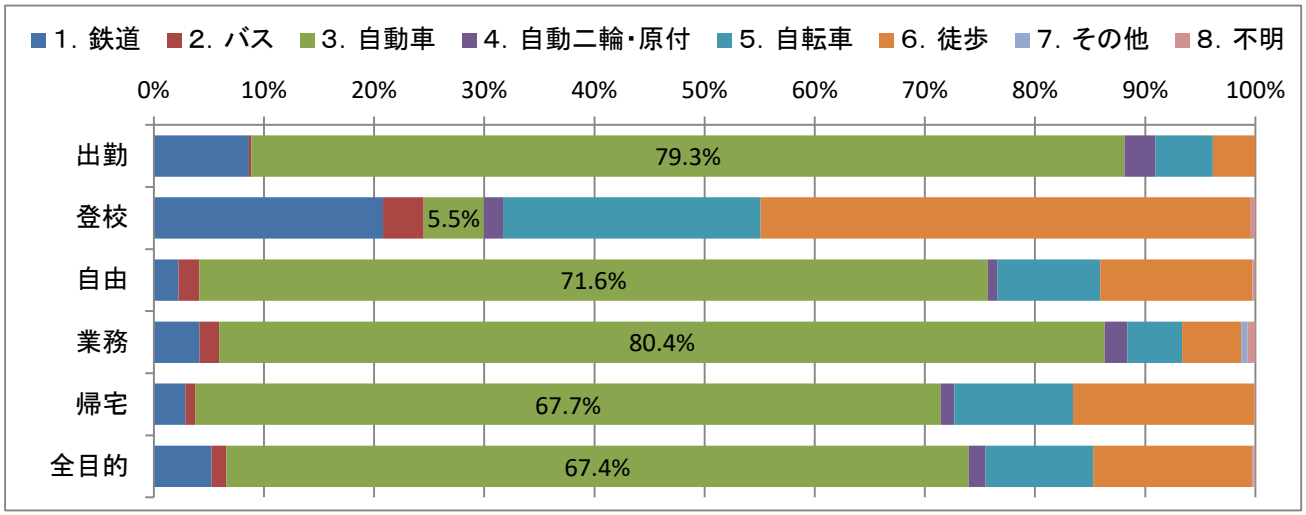
・コミュニティバスは、市街地内は工業地を除きほぼ全域がコミュニティバスのサービス圏（半径 300m）に含まれますが、運行密度は石部駅周辺市街地が最も高く、次いで下田・水戸・岩根市街地と三雲駅・甲西駅を結ぶルートが高くなっています。

平成 28 年度・平成 29 年度大津湖南都市計画基礎調査の結果に変更しました。

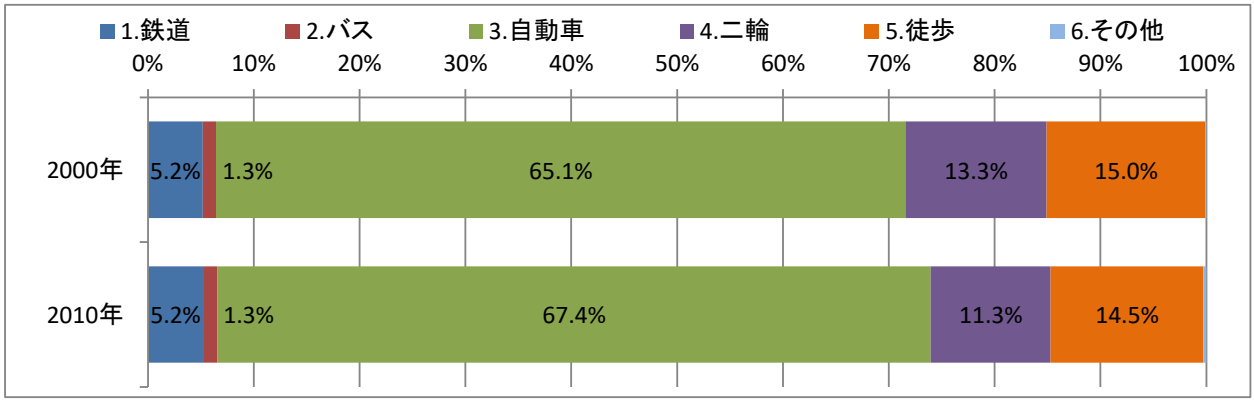


■公共交通の利便性

・日常の市民の交通手段としては、「自動車」が 67.4%と最も高く、公共交通の利用は 6.5%（鉄道：5.2%、バス：1.3%）に留まっています。
・経年的には、公共交通の利用には変化は見られませんが、二輪や徒歩の割合が減り、自動車の分担率が上昇しています。

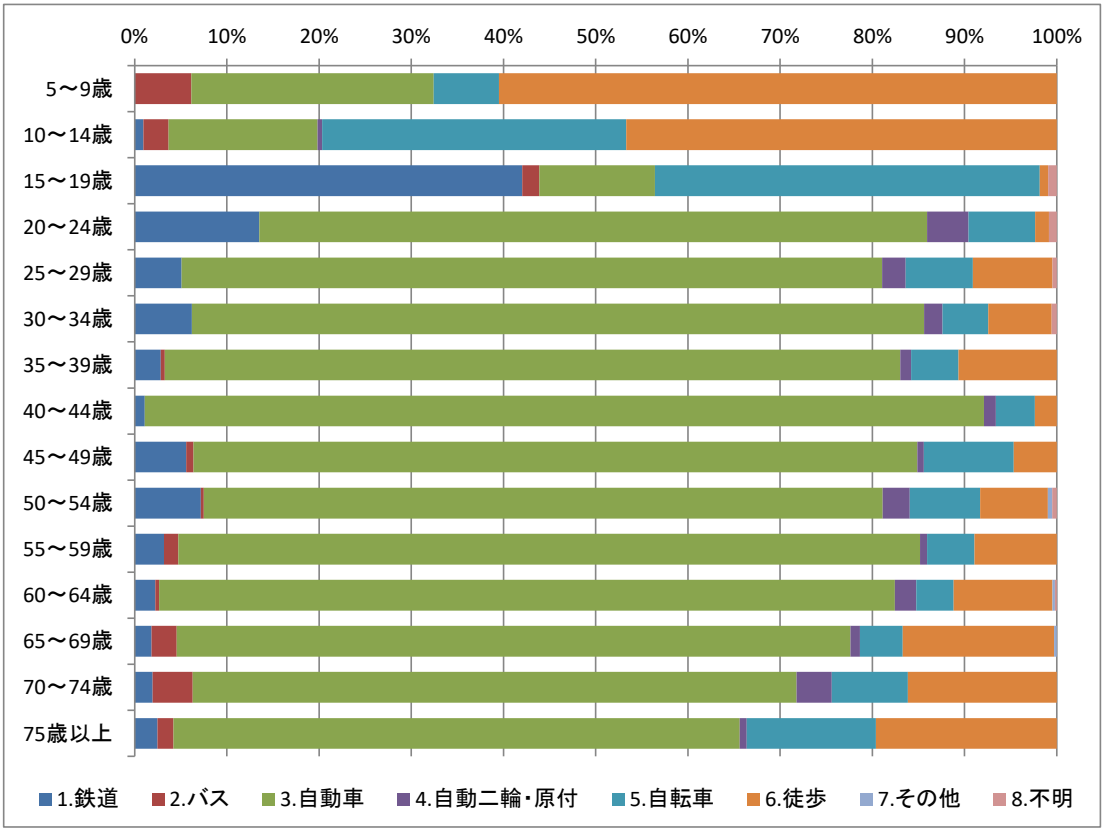


■平日の目的別、代表交通手段別発生集中量
（資料：平成 22 年（2010 年）　第５回近畿圏パーソントリップ調査）



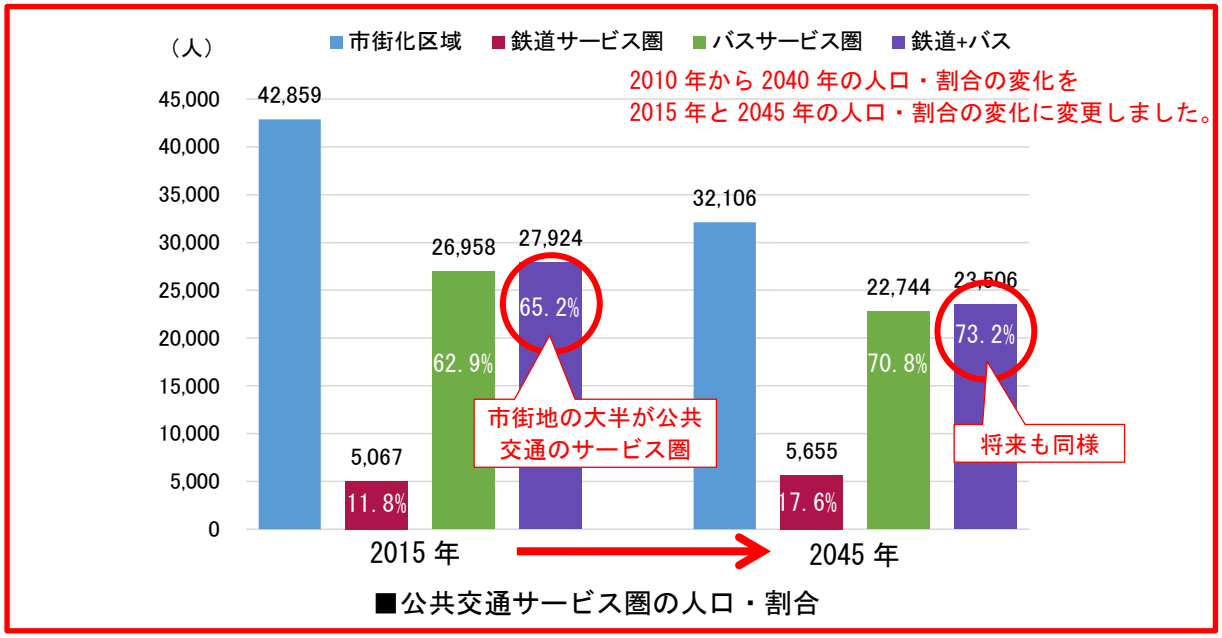
■代表交通手段別の経年変化（資料：各年近畿圏パーソントリップ調査）

・また、高齢者の行動特性として、65 歳以上でバス利用、徒歩、自転車の割合が上がる傾向が見られます。



■年齢階層別代表交通手段別発生量（平日の全目的）
（平成 22 年（2010 年）　第５回近畿圏パーソントリップ調査）

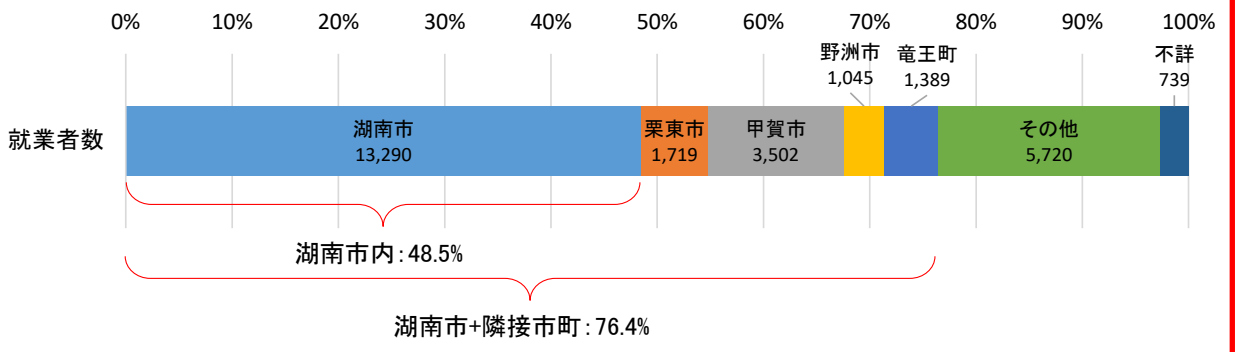
・公共交通の利用割合は低いですが、JR 草津線３駅のほか、コミュニティバスが石部駅、甲西駅、三雲駅を起点に分散する市街地を連結するよう運行しており、公共交通による市街地のカバー率は極めて高く、将来的にもその割合は維持される見込みとなっています。



■公共交通サービス圏の人口・割合

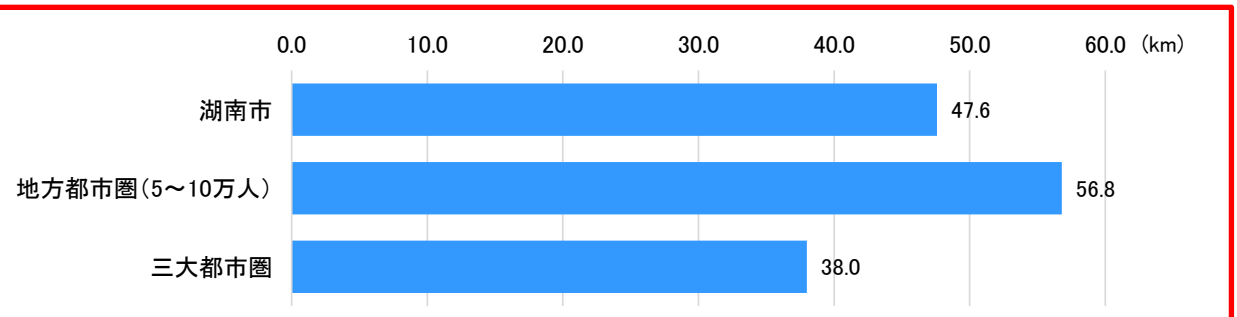
2010 年の国勢調査の結果を 2015 年に変更しました。

・なお、日常の移動手段は自動車利用が主となっていますが、湖南市に常住する就業者の市内及び隣接市町で従業する割合が約 75%を占めることもあり、移動距離は三大都市圏並みに短く、生活圏は非常にコンパクトになっていることがうかがえます。



■湖南市に常住する就業者の従業地（資料：国勢調査（2015 年））

2010 年の道路交通センサスの結果を 2015 年に変更しました。



■市民一人当たりの自動車総走行台キロ（資料：道路交通センサス（2015 年））

・公共交通のサービスレベルを踏まえ、公共交通の利便性による地域区分を以下の通り設定します。

・地域によってはコミュニティバスの運行本数に差がみられるものの、公共交通の利用実態からは便数による利便性の差は小さいと考えられますので、バスについては便数による区分は行わないこととしました。

■公共交通の利便性による地域区分

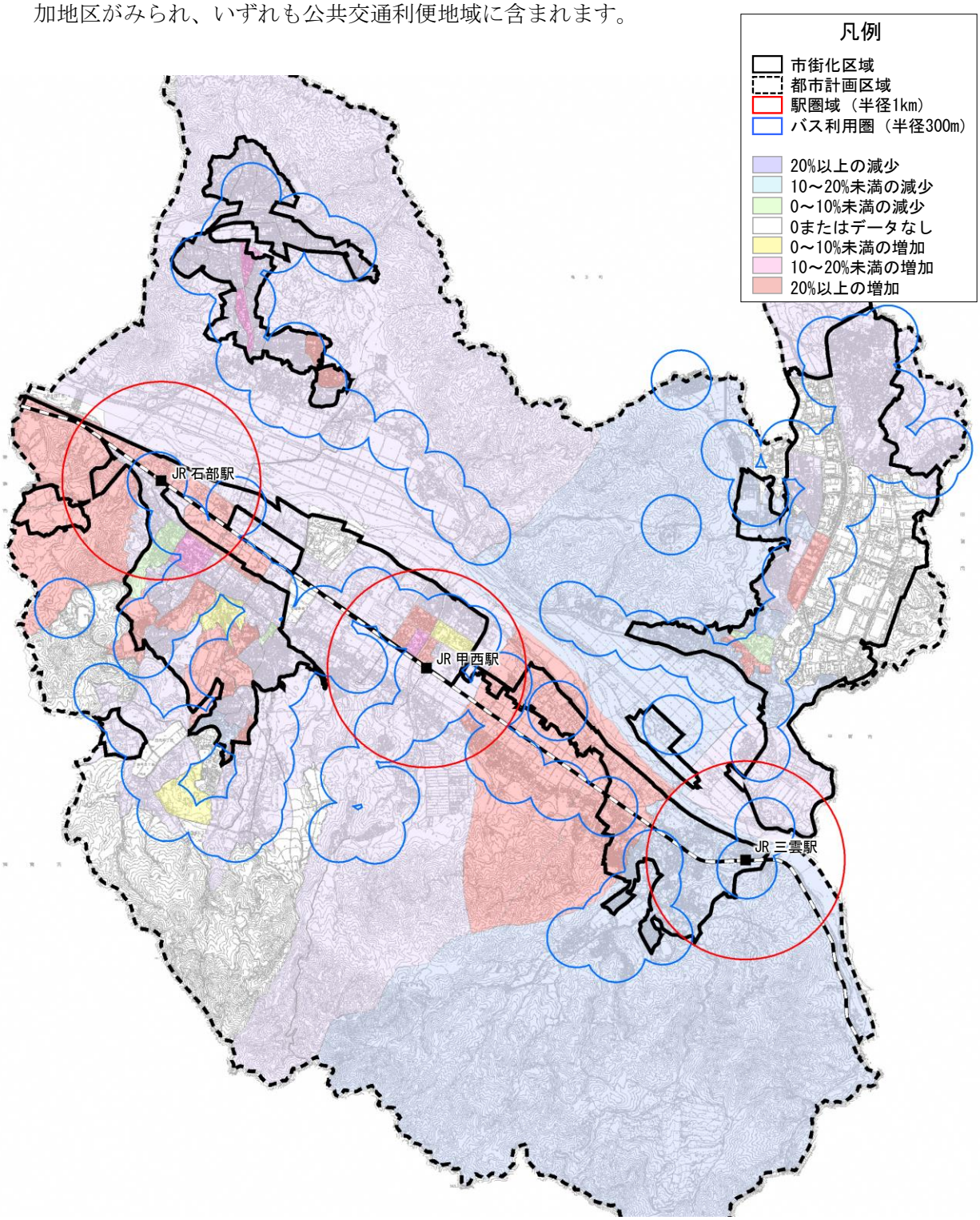
<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="3"></td><td colspan="3">バス</td></tr>
<tr><td colspan="2">バス停から 300m 圏内</td><td rowspan="2">バス停から
300m 圏外</td></tr>
<tr><td>運行便数
11 本/日以上</td><td>運行便数
10 本/日以下</td></tr>
<tr><td rowspan="2">鉄道</td><td>駅から
1km 圏内</td><td colspan="3">公共交通便利地域</td></tr>
<tr><td>駅から
1km 圏外</td><td colspan="2">公共交通便利地域</td><td>公共交通空白地域</td></tr>
</table>

②公共交通の持続可能性

2010 年と 2040 年の人口増減を
2015 年と 2045 年の人口増減に変更しました。

ア）公共交通の利便性と小地域別人口減少率

・公共交通の利便性が高い市街地内においても全体的に人口が減少する中、菩提寺市街地の県道沿いや石部駅周辺市街地、甲西駅北部、水戸、岩根市街地の県道沿いにおいて、10%以上の人口増加地区がみられ、いずれも公共交通利便地域に含まれます。

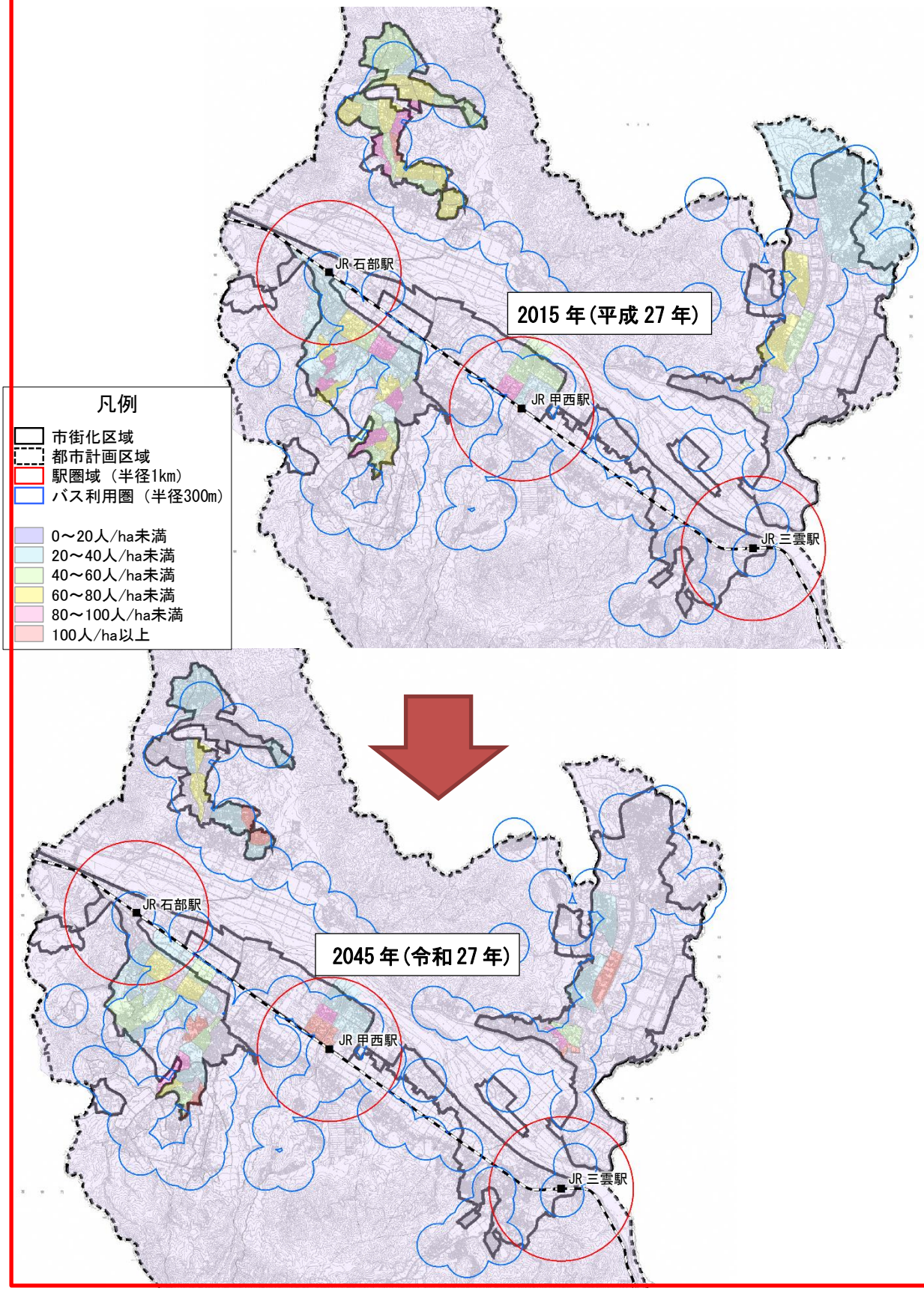


■公共交通の利便性と将来人口増減（2015 年（平成 27 年）⇒ 2045 年（令和 27 年））

イ）公共交通の利便性と小地域別人口密度

2010 年と 2040 年の人口密度の見通しを
2015 年と 2045 年の人口密度の見通しに変更しました。

・人口密度は、菩提寺市街地の南部や、甲西駅周辺市街地、水戸、岩根市街地の一部を除き、多くの地域で低下しますが、公共交通利便地域内での著しい密度低下は見られません。



■公共交通の利便性と小地域毎の人口密度